

事業実施地区の例① 「仙台東地区」ほ場整備事業概要と農地整備状況（令和2（2020）年3月末時点）

- 地区内を27の用水ブロックに区切り、工事計画案及び換地計画原案を確定したうえで、順次、工事を実施
- 平成30年度までに大区画化工事が完了した1,900haで効率的な営農が展開



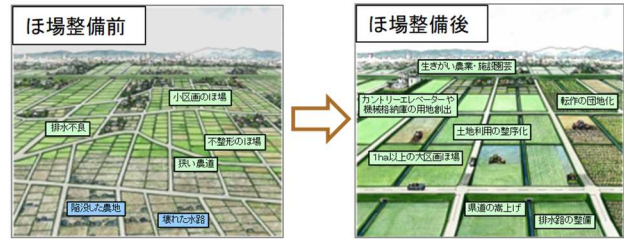
○事業概要

地区面積 : 2,170ha（農地、道路・水路含む）
 主要工事 区画整理 : 1,900ha
 工期（予定） : 平成23年度～令和2年度

・換地区毎に、次のような整備を行う。

換地区別	〈現況の整備状況〉	〈計画（整備方針）〉
高砂換地区	30a区画、パイプライン	→ 90a区画化
七郷換地区	30a区画、開水路	→ 90a区画化、パイプライン化
六郷換地区	10a区画、土水路	→ 1ha区画化、パイプライン化

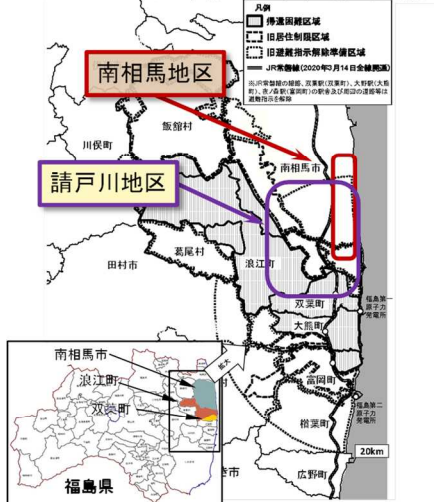
・六郷換地区の整備イメージ図



事業実施地区の例② 福島県内の国直轄災害復旧事業

避難指示区域の概念図

令和2（2020）年3月10日時点



・・・請戸川地区の進め方・・・
 福島復興再生特別措置法に基づく避難解除等区域復興再生計画に即して、避難指示区域の見直し等にに応じた段階的な復旧を進めている

○南相馬地区

- ・自治体からの要請を受け、排水機場を国が自治体に代わり復旧
- ・平成25年度から復旧に着手（排水機場8箇所、排水路3路線）
- ・令和2年3月末で排水機場7箇所が稼働、排水路3路線が復旧済み

被災した排水機場



復旧が完了した排水機場



○請戸川地区

- ・請戸川地区（南相馬市、浪江町、双葉町）の営農再開に向けて、農業用水を安定的に供給するため、農業用施設を復旧
- ・平成25年度から復旧に着手（ダム1基、頭首工5箇所、用水路20路線）
- ・平成29年4月から南相馬市小高区へ、平成30年4月から浪江町（一部）への用水供給が再開



資料：東北農政局作成

ウ 食料生産地域再生のための先端技術展開事業の成果

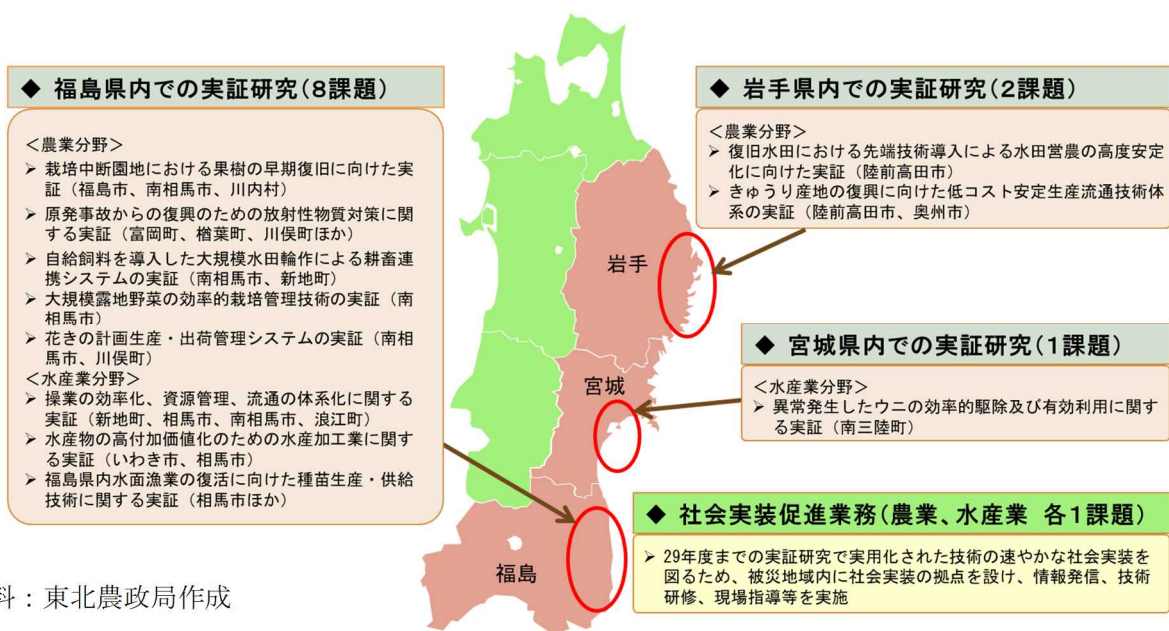
(岩手県、宮城県及び福島県で平成30(2018)年度から13課題を開始)

- 平成23(2011)年度から平成29(2017)年度まで、先端技術を用いて被災地の農業を復興させ、技術革新を通じて成長力ある新たな農業の育成を図るため、「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」(略称：先端プロ)を実施しました(図表1-8)。
- 同事業において、平成30(2018)年度から令和2(2020)年度まで、新たな状況変化に起因する技術的課題を解決するための実証研究(11課題)及び実用化された技術の速やかな社会実装を図るための社会実装促進業務(農業分野と水産業分野で各1課題)を実施しています(図表1-9)。

図表 1-8 食料生産地域再生のための先端技術展開事業(平成25(2013)～29(2017)年度)

<p>◆ 岩手県 ～中山間・冷涼気候地域における高付加価値型の営農技術実証による復興促進支援～ (3課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 鉄コーティング湛水直播による省力化・低コスト化技術並びに直播適性及び地域適用性の高い品種の導入を実証(陸前高田市) ➢ 地域木材を活用した木骨ハウスの開発、木質資源の活用による低コスト暖房技術等を実証(陸前高田市) ➢ ユズ、リンゴ及びブドウにおいて、生産・加工技術を実証(陸前高田市、大槌町)
<p>◆ 宮城県 ～低コスト大規模営農技術を核とした経営力向上による復興促進支援～ (3課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ブラウ耕乾田直播や鉄コーティング湛水直播の技術により、大区画圃場に対応水稲-麦-大豆の2年3作体系等を実証(名取市) ➢ トマト及びいちごの大規模施設栽培において、収益率の倍増を可能とする省力・高品質・多収生産技術の体系化等を実証(山元町) ➢ ぶどう品種「シャインマスカット」において、高収益率(倍増以上)を可能とする生産体系等を実証(山元町)
<p>◆ 福島県 ～放射性物質の影響を受けた地域における早期営農再開への支援～ (4課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ トルコギキョウの大規模水耕栽培において、単位面積当たりの所得増加を可能とする生産体系等を実証(いわき市) ➢ 浜通り地域の野菜種苗供給産地の再生に向け、高付加価値苗生産技術を実証(南相馬市) ➢ ナシ・カキ産地の再生に向け、新樹形による早期成園化技術、あんぼ柿の短期生産技術等を実証(福島市、伊達市) ➢ 持続的な酪農経営の再開に向け、放射性物質濃度の低い自給粗飼料の高効率生産体系の構築等の生産・管理技術を実証(福島市)
<p>◆ 水産 (岩手県2課題、宮城県3課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 天然資源への影響を軽減した持続的な漁業・養殖システムの実用化・実証、地域資源を活用した高付加価値型の水産業・水産加工業の実用化・実証(岩手県) ➢ 貝類養殖業の安定化、省コスト・効率化のための実証、サケ科魚類養殖業の安定化、省コスト・効率化のための実証、未利用魚等を活用した水産加工品の開発(宮城県)
<p>◆ 技術・経営診断技術開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 開発された先端技術の有効性の評価、経営診断技術の開発、オープンラボを拠点とした情報発信を実施(岩手県、宮城県、福島県)

図表 1-9 食料生産地域再生のための先端技術展開事業(平成30(2018)～令和2(2020)年度)



資料：東北農政局作成

社会実装促進業務「農業分野」

社会実装の取組方策

- 岩手県拠点、宮城県拠点、福島県拠点を設け、それぞれにオープンラボを設置し、成果展示、情報発信（ホームページ）、行政機関との調整、事業の進捗を管理する。農研機構東北農研センターは中核拠点として全体を総括する。
- 展示圃を設置運営し、普及組織・JAと連携して、現地セミナー、研修会、実習を行い導入支援する。

岩手県拠点

- 鉄コーティング湛水直播等の省力化技術
(岩手農研・岩手種苗センター)
普及目標: 1,218ha⇒2,000ha (県下全域)
- イブキ・コウソウ被覆による法面管理の省力化技術
(岩手農研・岩手種苗センター)
普及目標: 16,000㎡⇒30,000㎡ (陸前高田市・山田町・岩泉町・岩手町・西和賀町)
- 施設野菜における環境制御技術(岩手農研)
普及目標: 37経営体、5.8ha (陸前高田市・一関市・盛岡市)
- イチゴの長期どり栽培作型(岩手農研)
普及目標: 5経営体(陸前高田市)
- 醸造用ブドウの省力垣根仕立て栽培技術(岩手農研)
普及目標: 5ヶ所 5ha (陸前高田市・釜石市・花巻市・盛岡市)
- 水稲施設等の高度利用によるパプリカの栽培技術(岩手農研) 普及目標: 1経営体(県下全域)
- 露地キュウリと冬春キャベツによる寒冷地高収益の高収益モデル(岩手農研)
普及目標: 2経営体(県下全域)

宮城県拠点

- 大区画圃場におけるプラウ耕乾田直播
(東北農研・宮城農園研)
普及目標: 460ha⇒1,000ha (名取市・岩沼市・石巻市・東松島市)
- 既存施設を活用した水稲の低コスト栽培技術
(古川農試・宮城農園研)
普及目標: 500ha(名取市他)
- イチゴクラウン温度制御(宮城農園研)
普及目標: 4ha (亶理町・山元町・石巻市・東松島市)
- イチゴにおける総合的病害虫管理(IPM)
(宮城農園研)
普及目標: 20ha (亶理町・山元町・石巻市・東松島市)
- キャベツ等露地野菜の安定生産技術(宮城農園研)
普及目標: 10ha (岩沼市・登米市)
- 水稲育苗ハウスの有効利用技術(宮城農園研)
普及目標: 10経営体 (石巻市・東松島市)
- ブドウ「シャインマスカット」栽培技術(宮城農園研)
普及目標: 5ha(亶理町・山元町)

福島県拠点

- 電照栽培技術による小ギク生産
(福島農総センター)
普及目標: 5ha、70戸 (中通り・浜通り)
- トルコギキョウを核とした花きの周年生産技術
(福島農総センター)
普及目標: 夏秋トルコ+低温性花き1.5ha、30戸 周年水耕栽培: 2戸(中通り・浜通り)
- UV-Bランプ利用による病害抑制技術
(福島農総センター)
普及目標: 5ha、10戸(県下全域)
- ナシの早期成園化技術(福島農総センター)
普及目標: 7.5ha、70戸 (中通り・浜通り)
- 性選別精液による定時人工授精技術
(福島農総センター)
普及目標: 100頭、10戸(県下全域)
- 水稲乾田直播栽培技術(福島農総センター)
普及目標: 80ha(中通り・浜通り)

社会実装促進業務「水産業分野」

社会実装の取組方策

- 岩手県拠点、宮城県拠点、福島県拠点を設け、それぞれにオープンラボを設置し、成果展示、情報発信(webページ)、行政機関との調整、事業の進捗を管理する。水産研究・教育機構は全体を総括すると共に各県への支援を行う。
- 社会実装にかかる技術改良を進めながら、普及実用化支援組織及び市町村と連携して、現地報告会や研修会等を行い導入支援する。

岩手県拠点

- アワビ種苗生産効率化技術の普及
(岩手県水産技術センター)
普及目標: アワビ種苗生産施設4カ所導入 (陸前高田市・大船渡市・宮古市)
- アワビ漁獲データに基づいた資源管理技術の普及
(岩手県水産技術センター)
普及目標: 漁協4カ所導入 (大船渡市・宮古市・洋野町)
- 資源有効利用食品の普及
(岩手県水産技術センター)
普及目標: 企業1社導入(釜石市)
- 岩手県で実施した漁業漁村型実証事業成果の普及
(岩手県水産技術センター)

宮城県拠点

- マガキ幼生同定手法、シングルシート生産方法、未産卵一粒カキ・潮間帯干出力カキの養殖技術
(宮城県水産技術総合センター他)
普及目標: 3地区以上導入、8万個以上生産・販売 (石巻市・東松島市・南三陸町)
- 高成長ギンザケ生産技術及び養殖ギンザケの重要疾病の防除対策技術体系
(宮城県水産技術総合センター他)
普及目標: 高成長系稚魚5トン出荷、発眼卵20万粒生産、感染履歴検査を12経営体で実施 (南三陸町他)
- ツノナシオキアミの自己消化酵素を利用した魚味噌製造技術体系
(宮城県水産技術総合センター他)
普及目標: 企業2社導入(気仙沼市)
- 宮城県で実施した漁業漁村型実証事業成果の普及
(宮城県水産技術総合センター)

福島県拠点

- 操業の効率化、資源管理、流通の体系化に関する実証研究
(福島県水産海洋研究センター他)
(相馬地域・いわき地域)
- 水産物の高付加価値化のための水産加工業に関する実証研究
(福島県水産海洋研究センター他)
(相馬地域・いわき地域)
- 福島県内水面漁業の復活に向けた種苗生産・供給技術に関する実証研究
(福島県内水面水産試験場他)
(県内漁業権漁場・内水面養殖業者)